

校庭の梅の花も満開となり、日増しに春の息吹が感じられる季節となりました。誇り高き356名の若楠が、新たな芽吹きの時を迎えました。

本日ここに、大阪府立四條畷高等学校第72回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、公私ともにお忙しい中、大阪府教育庁ご代表様、大阪府議会議員様、衆議院議員様、四條畷市長様、四條畷市並びに大東市教育委員会教育長様、四條畷市立中学校の校長先生方、本校学校運営協議会委員、SSH運営指導委員、並びに歴代校長先生、旧職員の皆様をはじめ、多くのご来賓の方々のご臨席を賜り、高いところからではございますが、厚くお礼を申し上げます。また本校同窓会、並びにPTA役員の皆様方には、部活動や学校行事をはじめとする生徒たちの様々な活動に対し、物心両面にわたり、多大なるご支援とご尽力をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。

保護者の皆様、お子さまの晴れのご卒業、おめでとうございます。高校時代は、長い人生のうちでも、心も体も大きく成長すると同時に、多感で不安定な時期とも言われています。しかし、保護者の皆様が熱心に育み、導いてこられた甲斐が実り、お子さまは、御覧のとおり、とても頼もしい若人に成長いたしました。皆様方の本日のお喜びは、ひとしおのものがあろうかと拝察し、心からお祝い申し上げます。

七十二期生の皆さん、改めて卒業おめでとうございます。皆さんの脳裏には、どのような思い出が去来しているのでしょうか。勉学のことでしょうか。青春のエネルギーをこよなく燃やした部活動のことでしょうか。文化祭や体育祭、台湾での修学旅行など学校行事のことでしょうか。そのいずれにおいても皆さんは、見事なまでに一生懸命でした。安易に妥協することを良しとせず、懸命に自らの可能性に挑戦する姿は、輝いていました。皆さんが手にした卒業証書には、一人ひとりのたゆまぬ努力があったことは、もちろんのことですが、深い愛情をもって見守ってくださったご家族をはじめ、時には厳しく、時には熱く、そして優しく接してくださった先生方、そしてともに喜び、ともに涙した仲間、その他多くの人たちの励ましや支えがあったことを思い起こしてください。

さて、社会は今、驚くべきスピードで変化しています。皆さんを待ち受ける時代は、かつてないほど人類の叡智を必要としています。広く世界を見れば、国と国との、あるいは民族と民族とのやむことない抗争。エネルギー問題、環境問題、難民問題をはじめとして、困難ではあるが解決の急がれる課題が山積しております。翻って我が国を見れば、政治や経済をはじめ、社会の様々な分野において多くの矛盾を抱え、従来の枠組みは、制度疲労を来し、新たなシステムの構築が求められています。そのような時代であるからこそ、時代を担うリーダーとなる、皆さんの活躍に大きな期待をしつつ、饒の言葉を贈ります。

皆さんは、「アンパンマン」を知っていますね。皆さんの記憶の中での最初のヒーローかもしれません。私の家にも、昔、録画したビデオが残っています。作者の、やなせたかしさんは、アンパンマンを「世界一弱いヒーロー」と評しています。顔が濡れただけで弱ってしまうし、新しい顔を自分で作ることは、できないので、毎回ジャムおじさんやバタ子さんに助けを求める。それでも決して武器は、持たず、自分の力のみで闘う。そして、ひもじい思いをした人に、自分の顔を分けて与える。当初は、この行為に、「顔を食べさせるなんて残酷」「子どもの情操教育上よくない」「こんなみっともない主人公では、売れない」という声も上がったそうです。しかし、アンパンマンは、大人たちの予想に反して、子どもたちから絶大な人気を得て、半世紀以上に渡って愛される大ヒット作品となり、子どもたちのヒーローとしての地位を確立しました。そして、やなせさんは、自伝のなかで、こう語っています。

「ホントの正義というものは、決してカッコいいものではないし、そして、そのために必ず自分も深く傷つくものです。そして、そういう捨身、献身の心なくしては、正義は、行えません。」

「正義」。この言葉を、堂々と語るには、どこか勇気が必要です。私たちは、歴史を通じて、排他的なイデオロギーに基づいた「正義」が、とても危うく、とても脆いものであることを痛いほどに学んできたからです。昨日まで正しいと信じていたものが、今日から全く異なるものに変質する。このようなことは、この日本でも、過去に何度も起きています。悲しいことですが、利己的なイデオロギーに基づく「正義」の行使によって、国際紛争や民族差別により迫害されている人々がこの地球上にまだまだ多く存

在するの事実です。やなせさんが語るように、「人」と「人」という関係性において、「捨身、献身の心」すなわち「利他的な心」が、決して揺るぎのない「ホントの正義」に、他なりません。

今、世界が解決すべき課題として、国連が定めるSDGs [Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)] は、まさに、そのような、排他的、利己的なイデオロギーと一線を画した視点に立っています。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「安全な水とトイレを世界中に」。これら明確な17のゴールは、どの文化であれ、どの世代であれ、どの宗教であれ、「人間」という生物学的な種を俯瞰する立場から設定されています。私たちは、17のゴールを達成していく過程において、立ちはだかる課題を自らの手で解決しなければなりません。四條畷高校で学んだ皆さんは、授業、課題研究、学校行事、部活動等で培った力を駆使して、これらを解決する主人公、すなわちヒーロー、ヒロインとなります。

そして、これから皆さんが活躍するのは、Society 5.0 と呼ばれる超スマート社会です。そこではICT機器が威力を発揮して人々や物をつなぎ、ロボットやAIが多くの仕事を代替することになって、互いの顔が見えなくなるかもしれません。しかし、そういった社会でこそ、人々が触れ合い、生きる力を発揮して世界と向き合うことが大切になると思います。世界は、資本集約型や労働力集約型から知識集約型社会に変貌しようとしています。その動きを作るのも、皆さんの力です。

これまでの学習は、どちらかといえば、与えられた内容を覚える、あるいはあらかじめ用意されていた一つの正解を探すという受動的なものになりがちでしたが、これからは、与えられた問題の正解を見つけるだけでなく、何が問題かを発見する力が求められます。

また物事には、いろいろな見方があり、簡単には割り切れない問題がたくさん存在します。迷いながらも、それらに辛抱強く立ち向かい、自分で確認し、自分で考えて判断しなければなりません。これからの変化の激しい時代に求められるのは、自分で課題を発見し、そして、自分で解決しようとする姿勢とその力です。

さらにこれまでは、学校という限られた空間での生活でしたが、これからは、より広い、様々な人たちとのつながりの中で、社会に貢献できる役割を担っていくことでしょう。そのためには、自分中心の考え方から、他者への配慮ができる人間になること、自分の考えを自分の言葉で分かりやすく表現し、また相手の立場に立って、その言葉をきちんと受け止め、理解する、双方向でのコミュニケーション力が必要です。

この二つの力こそが、私たち教職員が、皆さんに求めてきた力です。皆さんは、四條畷高校での取り組みで、すでに、この力の何たるかを理解し、獲得されたと信じています。今後、さらにその力を磨いていくなれば、必ずやこの社会で、この日本で、そして世界で、活躍できることでしょう。皆さんに、これからの日本と世界を託します。

保護者の皆様、立派に成長されましたお子さまのご卒業、改めて心からお祝い申し上げます。お預かりしておりました大切な大切なお子さまを、本日無事、お返しすることができ、教職員一同、これに勝る喜びはございません。この間、本校の教育活動に多大なご支援、ご協力、ご理解を賜り、誠にありがとうございました。

卒業生の皆さん、健康に留意され、それぞれの新たな目標に向かって精進、努力され、その精進、努力が花を咲かせ、実を結ぶことを、心から願っています。私たちも、皆さんに「四條畷高校出身です」と誇りを持って言ってもらえるよう、取り組んでいきますので、畷高のことを、いつまでも見守っててください。

かくて卒業生の皆さんの前途が洋々たるものとなり、幸多かれと祈念して、私の饒の言葉といたします。

令和二年二月二十九日

大阪府立四條畷高等学校 校長 松本 透